

第 2 回鶴岡市中心市街地将来ビジョン・中心市街地活性化基本計画 策定委員会（会議録）

○日 時： 令和 5 年 1 2 月 1 9 日（火） 1 3 時 3 0 分～1 5 時 1 0 分

○場 所： 鶴岡市役所 6 階 大会議室

○出席委員： 上野 雅史 委員長、阿部 真一 委員、廣瀬 大治 委員、國井 英夫 委員、
尾川 勝則 委員、岡部 浩美 委員、本間 豊 委員、鈴木 小枝 委員

○欠席委員： ミヨ サラ ラッシュェル 委員、鈴木 俊将 委員、佐藤 菜々子 委員、
三浦 明弓 委員、五十嵐 久廣 委員

○オブザーバー：

経済産業省東北経済産業局産業部商業・流通サービス産業課長 成田 早霧 氏
（代理出席）課長補佐 佐々木 剛 氏

国土交通省東北地方整備局建政部都市・住宅整備課長 大泉 隆是 氏
（代理出席）建設専門官 渡辺 央 氏

独立行政法人中小企業基盤整備機構高度化事業部まちづくり推進室長 林 伸次 氏
（代理出席）室長代理 志田 竜彦 氏
専門職員 安達 富夫 氏

独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部まちづくり支援部長 鈴木 孝弘 氏

○アドバイザー：（欠席）早稲田大学 教授 矢口 哲也 氏

○事務局： 鶴岡商工会議所専務理事、企画部長、商工観光部長、建設部長、教育部長、企
画部政策企画課長、企画部地域振興課長、商工観光部商工課長、商工観光部商
工課商工企画主幹、商工観光部観光物産課長、建設部都市計画課長、教育委員
会参事（兼）管理課長、教育委員会社会教育課長、鶴岡商工会議所経営支援課
長、鶴岡商工会議所総務企画課企画係長、鶴岡商工会議所経営支援課経営指導
員主任、商工観光部商工課中小企業振興主査、商工観光部商工課主任（企業振
興班）、建設部都市計画課管理主査、建設部都市計画課都市計画係長、建設部
都市計画課都市計画専門員、建設部都市計画課専門員（都市計画係）、建設部
都市計画課主事（都市計画係）

○公開非公開： 公開

○傍聴者： 2 名

○次 第

1. 開 会

2. あいさつ
3. 報告
4. 協議
 - (1) 中心市街地将来ビジョン中間案について
 - (2) その他
5. その他
 - (1) 今後のスケジュールについて
6. 閉会

<会議概要>

1. 開会

2. あいさつ

《委員長》

- ・師走の大変お忙しいところ、第2回策定委員会にご出席いただき感謝申し上げます。本委員会は、令和5年度は本市中心市街地における今後のまちづくりの方針となる将来ビジョンについてご協議いただき、令和6年度はビジョンのアクションプランとなる中心市街地活性化基本計画に係る事項をご協議いただくものである。
- ・将来ビジョンの策定に向け、市民からの意見を得るために、ワークショップや民間事業者からのヒアリング、そして、ありたいまちの姿（案）を市内に掲示し、幅広い世代の方々よりご意見をいただいていた。
- ・鶴岡商工会議所では、将来ビジョンの策定に際し、その一助になるため経済団体の立場から事業者からの意見を集約し提言書を取りまとめ、12月12日に市長に提案をしたところ。その内容については後ほど説明させていただく。
- ・15年先のありたいまちの姿を描くため将来ビジョンを策定するが、共通認識をもって策定に取り組んでいきたい。その点を踏まえ、委員の皆さまからは、多様な価値観のあるビジョンとなるよう活発なご議論と忌憚のないご意見を頂戴したい。

3. 報告

… 事務局より、下記の2点について資料により説明。…

- ① 鶴岡市議会 人口減少・地域活性化対策特別委員会提言書について
- ② 鶴岡商工会議所 中心市街地活性化ビジョン提言書について

《事務局》

- ・後程説明させていただく中心市街地将来ビジョン中間案の作成にあたっては、市議会及び商工会議所の提言書の内容を踏まえた検討を行っている。

《事務局》

- ・質問があればいただきたい。（質問なし）

4. 協議（議長：委員長）

《委員長》

- ・令和5年7月12日に開催された第1回策定委員会が出された意見のうち、やはり人口減少の中で、中心市街地がどうにも寂れてきており、皆さんが現状に危機感を覚えており、それを何とかしなければいけないと考えている。また、今ある鶴岡の資源や鶴岡らしさが十分に活用されていないという意見や、市民参画のワークショップ等の意見も踏まえて事務局で中間案を取りまとめている。中間案について事務局より説明いただく。

(1) 中心市街地将来ビジョン中間案について

《事務局》

… 中間案についての説明 …

《委員①》

- ・前回の策定委員会で、加茂水族館のようなわくわくできるような機能が中心市街地には必要だとお話した。〇〇できるまち、わくわく感や期待値を高められる中間案、ビジョンにしていなければと思う。

《委員②》

- ・資料1-1の「ありたいまちの将来の姿」④居住に「こどもまんなかを支え」と記載があるが、下の「まちづくりの方針」、「想定する取組例」として、「こどもまんなか」に該当するものが見受けられない。どちらかというと「こどもまんなか」は居住場所というよりは制度的なものだと思う。例えば、第3子以降は大学の学費がゼロになるといった、第3子以降にしかメリットがないような制度しか出てこない。これで第3子を産みたい、育てたいと思っている夫婦やカップルが存在するのかと少し腹立たしくも感じている。それも含めてではあるが、「こどもまんなか」については、鶴岡の旧市街地に住んでいてもそれほどデメリットは正直感じていない。
- ・また、④居住の想定する取組例に、中心市街地の「狭あい道路解消を図る小規模区画再編等の推進」という取組例があるが、ランド・バンクではこれまで10年以上、細かい区画を少しずつ広げていく寄付前提の事業を行っていたが、残念ながら鶴岡市からは、この町、この区画をやってみようといった提案や、方向性を示す条例を見直そうといった提案が一切無かった。できれば、市から町内会の会長などに対して小規模区画再編等を推進するまちづくりの取り組みに対し鶴岡市は協力しますといった説明をしていただき、その上で、手挙げしていただいた町に対し、まずは重点的に小規模区画再編を行うといった試みをそろそろやらなければいけないと考える。
- ・我々は、小規模区画再編の取組に対し、力を貸すNPOであるが、あくまでもオーケストラの演奏者に過ぎない。指揮者がいなければ演奏ができない、取り組みができないといったことを改めて申し上げる。
- ・最後になるが「こどもまんなか」について、二人の子どもを育てている親としては思うところがある。一生懸命働いていても、すぐ社会保険料も上がるし、保育料はやっと無償化となったが、頑張れば頑張るほど税金が上がるという矛盾をずっと考え、感じていた。本当に「こどもまんなか」というのを、「ありたい将来の姿」に入れたい

のであれば、この「こどもまんなか」に相当する方針を入れていただきたい。

《委員長》

- ・ 「こどもまんなか」についての意見に対し事務局で説明いただきたい。

《事務局》

- ・ 「こどもまんなか」に相当する取組例が見受けられないという点について、参考例として国土交通省の「こどもまんなかまちづくり」について、具体的にどのようなことをする必要があるのか事例が示されているので、その内容を紹介させていただく。
- ・ 内容としては、支援環境の充実と、子ども・子育て世代の目線に立った公園づくりということが具体的な取組みとしては示されている。子ども世代の活動支援センターといった地域の交流センターの整備や、子どもや子ども連れの保護者が歩きやすい歩行空間の整備の支援、子どものためのアイデアを取り入れた公園の整備など、事業ベースで具体例として参考になるかと思い、ご紹介させていただいた。

《委員長》

- ・ 委員いかがか。

《委員②》

- ・ なんとなく理解できたが、実際にそのようにしてくれるのが一番重要である。庄内エリアの公園は、どう考えても子どものための施設であるが、遊具が劣化して使えなくなっている状況で、黄色いテープが入口に貼られ事件現場のようになっている公園もある。今まではそうではなかったという状況をずっと見てきたため、この中心市街地将来ビジョンが定まれば、良い方向にベクトルが進むのかと期待したい。

《委員③》

- ・ 中心市街地の活性化をテーマとしてTMOの委員会は20年近く活動している。私は鶴岡商工会議所の副会頭も長くやっており、今回、商工会議所と市役所の官民で情報交換しながら中心市街地将来ビジョンや中心市街地活性化基計画の策定・計画するにあたり、踏み込んだ対応を従来になくやっていただいたと思う。
- ・ 金融関係についても経験があるので申し上げるが、鶴岡市は合併当初14万人であったのに対し現在12万人を切るくらいになっている。また、人口が減少していくスピードも速いと予想されているが、そうはいつでもまだ人口は10万人いる状況である。
- ・ 郊外が非常に広い鶴岡市で市としての求心力を保つためには、商業の活性化はもちろんであり、さらにはゆっくりと過ごせる空間、それが図書館であったりするのだろうが、そういったものが、今回はより狭いエリアに凝縮して実現していこうと中間案では示されている。
- ・ これまでは、まずは商店街から活性化していこうということを一生懸命やってきた。しかしながら、これは本当に実現可能なのか、といった内容までにはなかなか踏み

込めていけなかった。そのような中で、今回の中間案はエリアを狭めて、いろんな機能を凝縮して、活性化できるエリアをまず作ろうとしており、旧来にない画期的な考え方だと思う。これを今後5年、15年かけて実現していくということになると、人口が仮に8万人と減少しても、中心となる“へそ”の部分をきっちり作っておくということは都市機能を維持していく点では非常に重要。個人的には今回の中間案は非常によくまとめられており、策定まで頑張っていたいただきたいと考える。

《委員長》

- ・ 町内会の中でやる気のあるところで重点的に取り組んでいくといった、地域を絞り、実効性を高める取組みが必要なかもしれない。いただいた意見を踏まえると、万遍なく活性化事業を行うというよりは、限られた資源の中であるので、エリアを絞り、そこに対し重点的に取組みを行うこともよいのかもしれない。

《委員④》

- ・ 商店街連合会では、以前、藩札事業を中心に活発に活動を行っていた。藩札事業はお客様に5%還元する事業だったが、新型コロナの影響により5%の割引ではなんともならない状況になった。30%40%という割引状況になり、現在は藩札事業を中止している。
- ・ 商店街の賑わいについては、銀座商店街の寒鰯まつり、パンまつりがとても参加者が多い。食のイベントについては、大いに市民が期待し参加しているものだと思う。
- ・ 資料1-1の「ありたいまちの将来の姿」①～⑤について、どのような予算立てをしていくのか疑問。やはりプロの意見は必要であるし、順序立ててひとつずつやっていく必要があるのではないか。また、今このような話をして、15年後と言われてしまうと、なかなか予想がつかないところであり、予算立てや色々なビジョンをもう少し考えたいと思う。

《委員長》

- ・ アクションプランとなる中心市街地活性化基本計画については、5年ごとの計画を3回作り、3回目の基本計画期間終了後が15年後のビジョンのイメージになるため、今すぐ15年後までの予算を作るものではないことを補足させていただく。

《委員⑤》

- ・ 観光について、現在インバウンド誘致しようということで、様々な方が様々な形で動こうとしている。先にお話があったオーケストラの指揮者の話には納得できるし、指揮者は誰なのだろうかと同様に思ったところ。観光DMOなのか庄内総合支庁なのか、あるいは民間事業者なのか。どの団体もそれぞれで観光事業を行っているが、まとまりがなく疑問に思う。
- ・ 観光振興する際に、お客様に来ていただくことは確かに大事だが、本市に住んでいる方がウェルカム感をもって対応することが大事なので、外向けに「庄内・鶴岡に来てください」とお話す一方で、市民に対しても、観光を盛り上げていきましょうと示される旗振り役が必要だと感じる。それを念頭に置いていただき、人口減少

の中ではあるが、観光客を交流人口として賑わいづくりをすることもとても大事であり、力を入れていきたい。

- ・ 賑わいや活性化はそもそも人の動きだと思う。10万人の人口がいても、人がまちを歩いていないと賑わいがあるとは思えない。クルーズ船のお客様の対応をした際に、酒田市でまちを歩いている人が一人もいないことを指摘された。平日の昼なので学校に行っていたり、仕事をしていたりすると説明はしたものの、やはり人が歩いていないということはまちに人がいないと思われるため、いかに外を人が歩いてくれるのが重要。例えば、中心から放射線状にバスが出てくれると人が歩きやすくなるのでは。
- ・ 人口減少は避けられない問題。人口が10万人、8万人といった本市の15年先を進んでいるような人口規模の自治体を参考にしてみてはいかがか。
- ・ 最後に、中間案資料に「仕事」という視点が欠けているように思える。仕事がどのように組み込まれていくのかも説明いただきたい。

《委員長》

- ・ 質問について、事務局で回答願いたい。

《事務局》

- ・ 観光という観点では、ご指摘にあった誰が指揮者を担うのかについては同様の認識である。本市には観光DMOがあり、市商工観光部もあり、地域の事業者もいる。それぞれの役割分担を明確にして、一体感を持って観光振興していくことが重要としている。
- ・ 今年度、観光戦略プラン中期計画を策定しているところ。インバウンドも含めた5年後を見据えた観光戦略を策定し、その中でそれぞれが担っていく役割を考える。
- ・ 観光DMOには、地域情報を束ねて情報発信をしていく機能もあれば、データに基づく観光振興をするために、分析・マーケティング機能を備えるなど、業務について明確化していく。
- ・ 本市としては、受入れ体制をしっかりとっていくことが重要と考えている。引き続き観光戦略プランをまとめる作業を行い、併せて地域の皆様からもご意見をいただき反映していきたい。

《事務局》

- ・ いかにまちなかを歩いていただくかという点では、鶴岡商工会議所の提言書にも、歩きたくなる空間を作ることが重要という記載があり、同じく中間案の取組例にも歩行者空間の整備について記載している。
- ・ 仕事という視点が不足しているというご指摘については、文言として「仕事」の記載はないものの、間接的に仕事ができる環境、ビジネスチャンスが中心市街地活性化とともに生まれてくることを期待している。賑わいを作ることも、人が集まるという点でビジネスチャンスに繋がると考えている。
- ・ 観光についても、観光客が増えるということで観光客を相手にしたビジネスも生まれるだろうし、それに魅力を感じる市民もいらっしゃると思う。また、居住にして

も、住む人が増えれば、そこに商売が成り立つ環境ができると考える。

- ・ 仕事については非常に重要な観点であり、民間事業者が稼げる中心市街地にもできればと考えているので、注意しながら対応してまいりたい。

《委員⑥》

- ・ 新型コロナも感染法上で5類となり規制も無くなったが、入館者数の戻りは3年前の8割程度である。
- ・ 前回もお話したが、様々なイベントをすると人が集まるのは同じ。イベントが目的の方はマスクをしていても来られる。
- ・ 例年はゴールデンウィークの入館者が最も多かったが、今年度入館者が多かったのは11月3日から5日だった。その際に、刀剣乱舞のイベントもあり集客もあったが、それ以降は引き続き厳しめの客入りである。
- ・ 活用できていないものを活用できればということで、ご紹介までに致道博物館のクラウドファンディングのチラシを配付させていただいた。資金調達内容は再始動プロジェクトで、成功すれば来年度の連休に集客が見込まれるのではないかと考えている。
- ・ 人を集めることが当館にとっても必要ではあるものの、イベントを行うということは、花火を上げることと同じ。毎日は難しい。
- ・ 当館を見学してから休みたい、食べたい、お茶を飲みたいという要望があるが、通常営業している店舗が少ない。観光には見るだけでなく食べることも重要。

《委員⑦》

- ・ 2年後に山形県で全国女性建築士全国大会があり、その視察を兼ねて今年金沢に行ってきた。昨年の秋田県の大会にも参加し、いずれも現地の図書館を見学してきたが、どちらの図書館も多くの利用者がいた。
- ・ 金沢の図書館が印象に残っている。図書館は静かなイメージだったが、子供がはしゃいでおり、老若男女が集えるような図書館があれば、文化会館でなく図書館が楽しめるのかもしれない。
- ・ また、普通に1日10,000歩以上は歩いていたが、どこに行っても足の確保が楽だった。観光する際には、人はそこそこ歩けるし、観光地にも行く。賑わいの場所があれば人が来る。
- ・ 八戸市には市民の交流プラザが各地にある。そういう施設で市民がイベントをやっていたら観光客が興味を持って集まってくる。
- ・ 本業の居住の話になるが、中心市街地エリアは区画が小さく細い。そういったエリアをランド・バンクと協力して居住できるエリアにしていただければいいのではないかな。

《オブザーバー①》

- ・ 中間案についてはとてもよくまとまっている。都市経営について説明させていただくと、「③観光」については、鶴岡市だけでは人口減少するのは必至であり、人口の拡大を「①賑わい」と「③観光」で結び付けていてよいのではないかな。観光客に、

色々なところでお金を落としてもらう。商店、飲食店でお金を落としていただき、儲けた分だけ鶴岡市にも税収がある。どうやってお客様にお金を落としてもらうかを考えていただければと思う。

- ・ 「②居場所」については、賑わいづくりだけを頑張っている、今度は遊び疲れてしまうということもある。そういった意味でも休める場所、くつろげる場所が賑わいとセットで必要なのでは。
- ・ 「④居住」については、土地の価値が賑わいづくりでだんだん上がってくる。ここをどうしていくのかを市と関係者で考えてほしい。居住は難しい課題で、助成や高層化などの施策は考えることはできるが、土地・建物は個人の資産でもあり対応に苦慮する部分になる。色々アイデアを出して考えていくしかない。
- ・ 「⑤移動」については、東北管内は車社会であり、公共交通は都市においても難しい状況。運輸局と意見交換する機会があり、その際には賑わいの場所に交通の拠点があるとよいのではという話があった。
- ・ 最後に商工会議所の提言書の内容について、エリアマネジメントの話は色々進めていく必要があるが、一方で、指揮者の話について、ある程度頑張っている自治体は、まちづくりを頑張る方、何とかしたいと思う方を見つけて応援し協力し合って、まちづくりのコーディネーターとして連携して行っている。そのような取組みはいかがか。

《オブザーバー②》

- ・ 「できる」という言葉がテキストマイニングで出てきたことがとても評価できる。
- ・ エリアマネジメントについてだが、先のオブザーバーの意見と全く同じ感想で、エリアマネジメントの推進体制が重要と考えている。
- ・ 5つの「ありたいまちの将来の姿」で仕事の視点がないのではという意見があったが、新規出店者、新規事業者、新しい仕事が重要であり、新規出店された事業者に対し、まち全体で必要なサポートして育てていくことも必要と考える。

《オブザーバー③》

- ・ 「こどもまんなか」の文言があるが、子どもたちの思い出を街なかに残すことが重要だと考えている。思い出がないと鶴岡に戻ってきたいと思わないのではないか。
- ・ 配布資料にあった高校生向けの鶴岡A Z I T Oのチラシはとてもよい取組みと思った。外から企業誘致をするということも難しくなっているため、若いうちから創業支援を行い、若い人が自分のアイデアを持って事業を興し社長になれるまちを目指すのもいいかもしれない。
- ・ 資料1-1の縦軸のところで皆さん一生懸命仕事をされているが、この5つすべてを考えていっちゃうのは市長だと思うので、横串を刺していただければと考える。

《オブザーバー④》

- ・ 中間案については、色々な方の声を聞いてまとめられたのだとわかり、非常にうまくまとめた印象を受ける。
- ・ 方針や取組みを具体化する際に、場所を絞って集中的に取り組まれると思うが、歴

史・文化をどのように溶け込ませるのか、エリアを決定する際にどこまで盛り込んでいくのか疑問。

- ・ 都市経営の観点で言うと、実効性を考えて場所を選ぶ際、なぜそのエリアのみ実施するのかを市民に聞かれた際どう答えるのかも考える必要がある。市の中で税収が増えて公共サービスがよくなる、市全体のためになる、経営に資することになると示していく必要がある。
- ・ 郊外部と連携しながらやっていけることも広がっていくのではないか。
- ・ それぞれ担当の部局があるが、人の行動に焦点を定めてまちづくりを進めていくことが国土交通省でも提言されている。
- ・ 資料1-1の縦軸だけで動いていくとつながりが薄くなってしまうため、全体として動きを作るための工夫も必要。
- ・ 図書館の作り方においても、コンテンツで何を揃えるのか、並べ方はどうするのかなど、先進事例が出てきているため確認したほうがいい。石川県立図書館は劇場のような形で、客席に本棚があるような雰囲気、多くの人がいるので居場所感がある。また、ジャンルを越えてある国の本がたくさんあるといった工夫もある。創業・起業の本、食文化のための本など、特色あるコーナーを準備することで、地域を知り関わってもらう機会を作ることもできる。

《オブザーバー⑤》

- ・ 中間案の全体の構成については、市民・事業者等に意見聴取した中で若い世代のまちづくりの関わりについても視点が置かれていて、雰囲気としてはとてもいいビジョンに思える。
- ・ ワークショップの意見でも、シビックプライドや地域に対する誇り・愛着についての内容があったが、居場所のところに言えば、事実として商店街よりは郊外に買い物に行き、商店街を通過するだけとなっている。中心市街地に関わりが無いままに過ごしてしまうと、中心地へのシビックプライドは育ちにくいのではないかと。そのため、若い世代がまちづくりを考える施策は必要だと考える。

《委員長》

- ・ ひとり通り皆様から意見をいただいたが、中心市街地将来ビジョンについては市民、事業者、行政、これに関わる皆さんが、全員でやっていくものと思っていただくことが重要。2月8日の3回目の策定委員会では今回の意見を織り込んだうえで作っていきたい。
- ・ また、来年度にはアクションプランとなる中心市街地活性化基本計画3期計画を策定する。今回お話いただいた内容も踏まえ、具体的に計画に落としこんでいければと思う。

《事務局》

- ・ 本日ご欠席の委員、アドバイザーからも事前にご意見をいただいております、その報告をさせていただきます。

(委員⑧)

- ・ ありたいまちの将来の姿についてはシンプルで短い方がよい。①賑わいの「食文化創造都市」、③観光の「酒井家庄内入部400年」、④居住の「こどもまんなか」は、ありたいまちの将来の姿の中ではなく、施策として盛り込むべきではないか。⑤の「中心市街地の魅力」といった文言は不要ではないか。
- ・ AIなどデジタルを駆使するまちづくりに記載をするといいいのではないか。例えば④の居住であれば、デジタル技術を活用した安心してかつ快適に暮らし続けることができるまちといった書き方も一つの案ではないかと思う。
- ・ キャッチフレーズについては、これまでの事例だと市がやるもの、市がやってくれるものと捉えられる標記になっているのではないか。市民みんなで考えることが重要であり、自分事として取り組んでもらえるようなものにしていただきたい。

(委員⑨)

- ・ ありたいまちの将来の姿については、すんと落ちず、堅苦しい言い方だと感じた。5つのカテゴリの相互の関係性がわかるとよい。
- ・ 高校生をはじめ若い人にとって集う場所があると実感できることは大切なことだと思う。
- ・ 鶴岡には素晴らしい歴史・文化があり、それを若い人がシニアから学び、そして観光客に伝えていく。観光客にとって、歴史・文化を説明してくれる人がいると感動の度合いが全然違う。
- ・ シビックプライドという説明があったが、若い人に鶴岡プライドのようなものが芽生えるようなビジョンにすることが重要である。

(委員⑩)

- ・ ありたいまちの将来の姿については一言でいえるもの、例えばキャッチフレーズがあるといいのではないかと思う。
- ・ 視覚に訴えていることがわかりやすさに繋がる。
- ・ 短い文章でやりたいことを説明した方がよい。自分事としてとらえられるような書きぶりにした方がいいのではないか。
- ・ バス利用については、自家用車ありきでバス情報を知らない市民が多いと思うので、まずは便利になっていることの情報発信がもっと必要だと思う。
- ・ 駐車場の確保は事業者が個々に対応している実情があるため、駐車場の共有化を検討することも良いのではないかと思う。

(委員⑪)

- ・ これまでの計画は人口増が前提で減ることを考えていなかった。人口が減る中では商店街の集約も必要なのではないか。大資本と同じ土俵で勝負するのではなくて、自分たちの地盤の中で商売ができるよう、知恵を出し合ってやっていくしかないと思う。
- ・ 交流人口は観光で増やすという考えは当初からあったと思う。周辺の観光地に行く途中に中心部は通過するだけでなく、まちなかへも立ち寄れるような拠点が必要だ

と思う。

(アドバイザー)

- ・ 資料はよくまとまっていて、指摘事項は特にない。
- ・ ワークショップ実施の際にも感じたことだが、鶴岡市は中心市街地エリアが大きいことから、複数のより具体的な集合体をビジョンとして作ることも重要だと考える。
- ・ 地域拠点の将来の生活像も提示し、イメージしやすくする必要もある。

(2) その他 (特になし)

《委員長》

- ・ 以上をもって、本日の協議を終了させていただく。

進行：事務局へ

5. その他

(1) 今後のスケジュールについて

《事務局》 … 資料により説明 …

6. 閉会

以 上